

修復機能・デジタルアーカイブ機能に係る主な論点への意見

国文学研究資料館 青木 睦

国立公文書館の機能・施設の在り方等に関する調査検討会議
保存・利用支援等ワーキンググループ（第1回）

日時：平成28年8月30日（火）

10時00分～12時00分

場所：中央合同庁舎第8号館6階 623会議室

1

【現状】

- 修復
- デジタル化
- 公文書館の報告を受けて

2

5-2-3-2. 利用頻度の高い公文書

利用頻度の高い公文書の中で「劣化強」及び「劣化中」は23.4%あり、これらに分類される資料群は、劣化要因を除去するために、脱酸処理計画対象候補となる。

「劣化強+破損強」の資料は0.3%あり、これらに分類される資料は、原本を利用制限するための利用のための代替物を作成する必要があるため、複製物作成計画対象候補となる。

「破損強」及び「破損中」は14.7%あり、これらに分類される資料群は修復計画対象候補となる。

利用頻度が高い公文書劣化・破損マトリクスと劣化・破損資料の割合(%)



図表 5-5

劣化・破損資料への対応策



※%は一次調査結果

図表 5-6

適切な優先度の判断に基づき
 戦略的に→積極的に
 修復及びデジタル化を進めることの重要性

- 現状を踏まえ加速して対応することの必要性
 →デジタル化
 →PR広報
 →利用拡大
- 本来は、利用頻度・利用ニーズ調査
 →デジタル化
- 残念ながら、研究動向や利用傾向がつかめない



- 保存修復の原則
 - 1 原形の保存
 - 2 安全性
 - 3 可逆性
 - 4 記録化

5

修復方法を選択するための利用の条件



6

修復、デジタル化を進める上での重要なポイント

- 資料保存のマネージメント
- 資料保存を「経営的・財政的に考慮」する。
- 「資料保存＝修復・補修」と理解する 경우가多く、この任務は保存修復専門家の領域と考える傾向が強い。しかしアーカイブズでの資料保存は広範囲、包括的な概念と理解することが求められる。
- 修復は重要だが、しかしそれは諸種の保存方策の一つに過ぎない。
- 資料保存を包括的概念として理解すれば、アーカイブズの維持管理がマネージメント（管理）業務であることも理解される。
- 資料保存は技術的な課題でなく、技術的方策を組み立てて計画的に構築するマネージメント（管理）が課題である。

7

保存担当者/保存管理専門職

（プリザベーション・アドミニストレーター）とは

- アーカイブズの中で、収蔵史料・史料群全体の保存管理を考える（統括する）
- 修復専門職（コンサーベーター）のような技術専門職ではない。
- 保存の確固たる理念を持ち、アーカイブズの保存方針と保存計画を立案する能力が求められる。
例えば、修復を外注する際、業者や技術者と対話と協議を重ねてやれる人。
- 専門的知識と技術を習得した人。一部の特別な史料を大切にする人ではない。
- 予算措置や概算の積算など、資金的権限も持っている人。
図書館や博物館にも必要です。

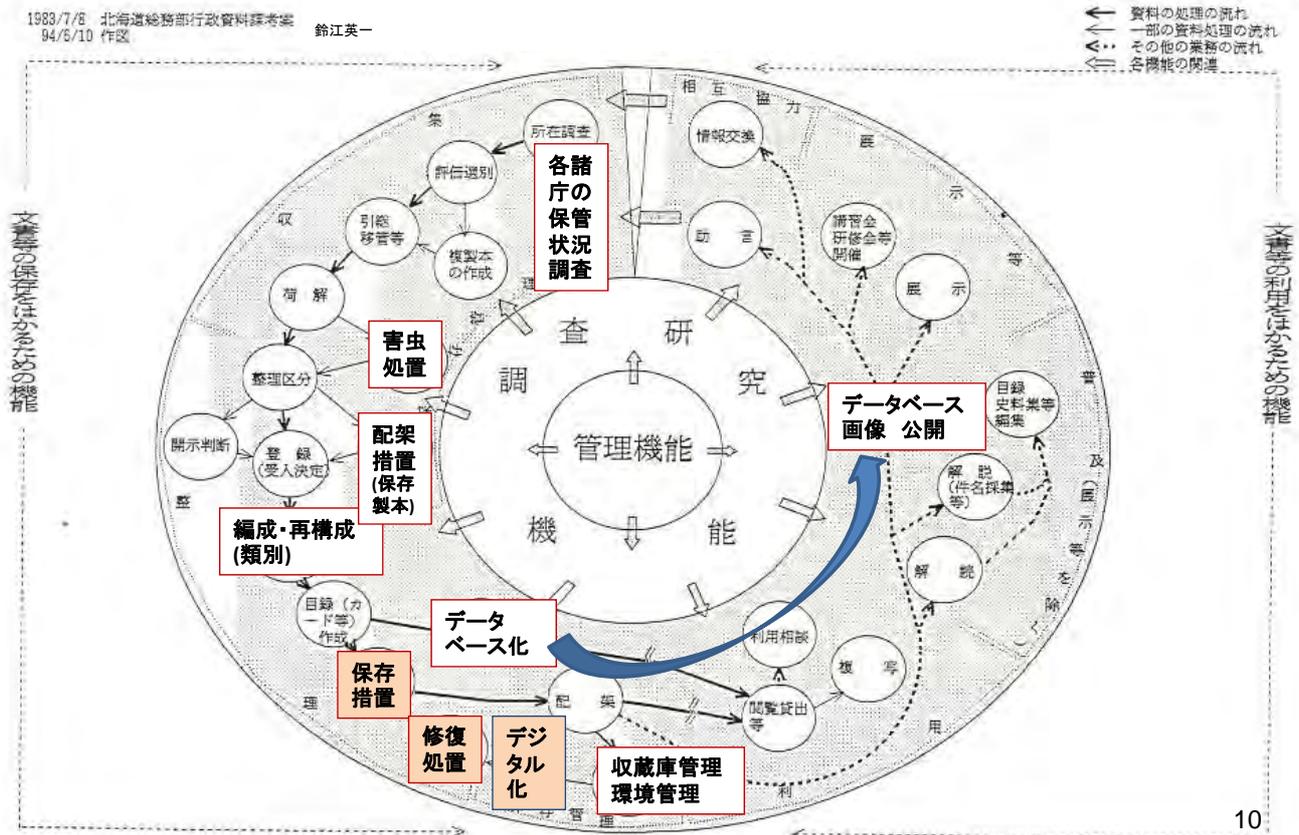
8

修復作業とデジタル化作業の連携の必要性、 連携する場合の効率的な業務フローの在り方

アーカイブズの業務

アーカイブズ総論 アーカイブズの管理の実際
青木 160720

20100510青木改訂



アーカイブズの機能と空間-概念図



[備考] この図は、安藤正人、青木睦による。一部青木改定。(国文学研究資料館史料館編『史料の整理と管理』岩波書店、1988、p.9)

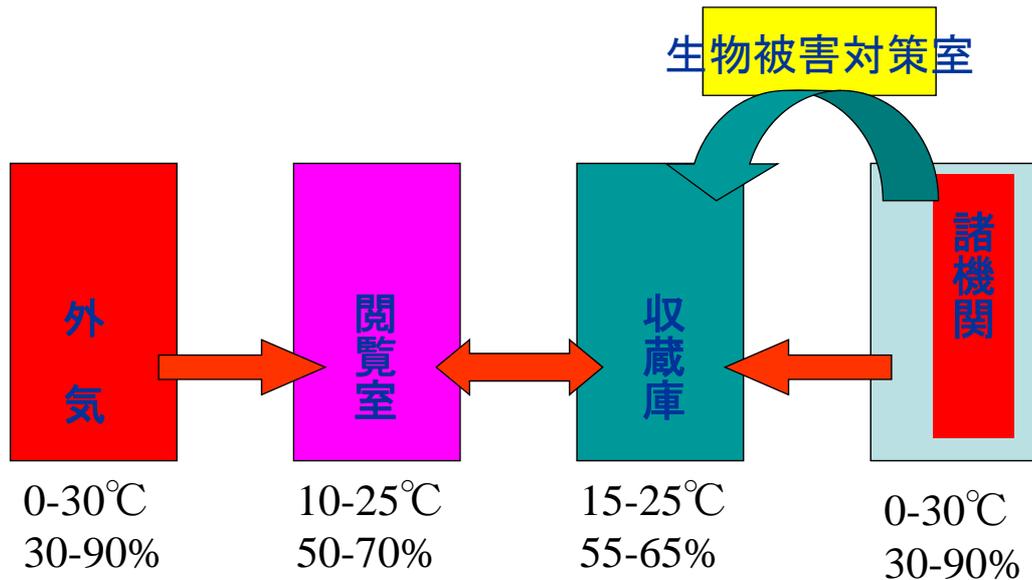
図1 文書館の機能と空間 [概念図]

修復、デジタル化関連施設の整備条件（室内環境、必要な設備、階数など施設内における配置等）

- 収蔵庫へのアクセス頻度が低いのは

博物館 > アーカイブズ > 図書館

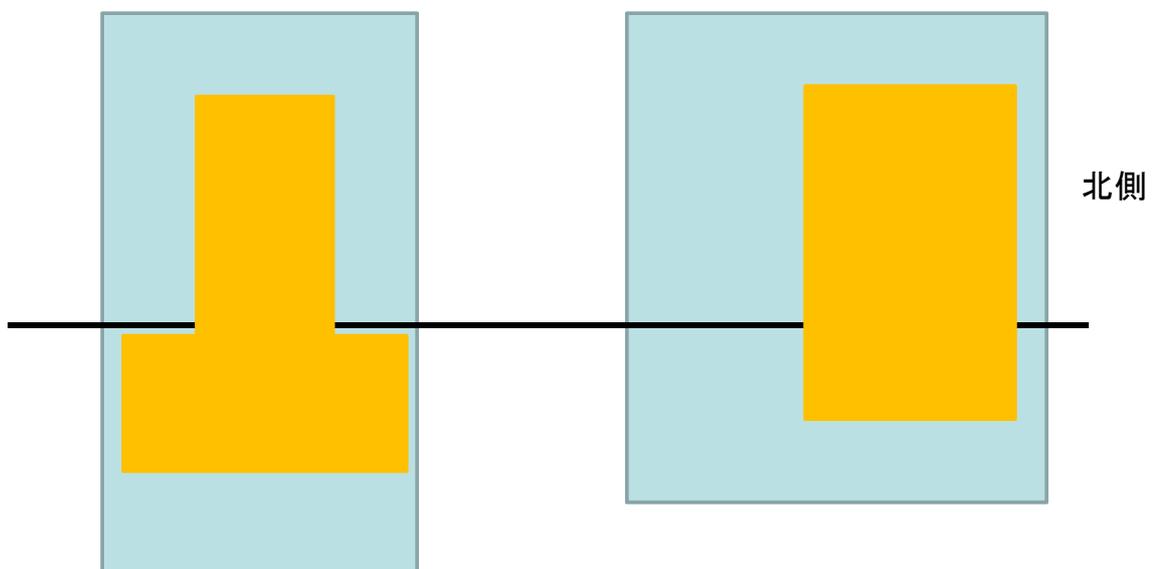
アーカイブズ周辺の温湿度環境



- 収蔵庫へ向かうに従って変化の少ない環境→急激な変化を避け、日変動を最低に
- 変温恒湿での環境制御の考え方
→四季の温度設定、65%RH以下での制御

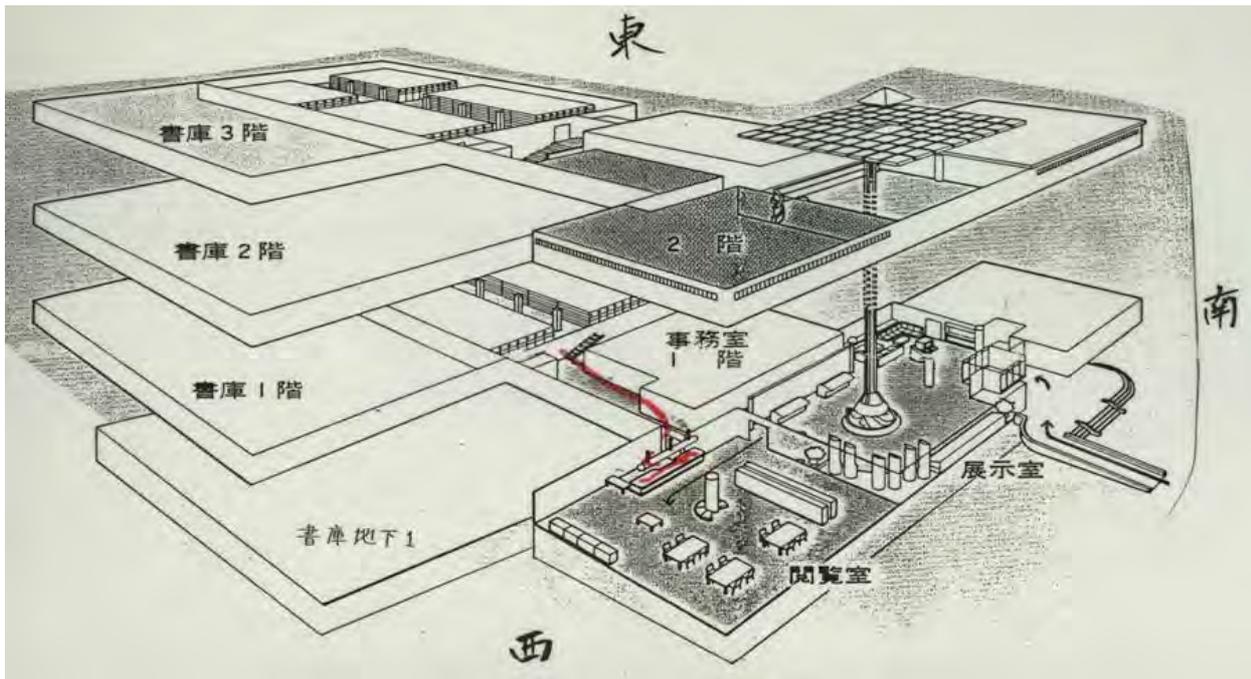
13

収蔵施設の位置



14

アーカイブズの物理的階層-例



資料の導線と人の導線をクロスさせない

15

地球環境とアーカイブズ

- 環境保護
→薬剤の使用の自粛
- 地球温暖化対策
→収蔵庫・展示室環境(温度・湿度・照明)
の見直し
- 世界の気象動向
洪水の頻度増加と被災地拡大

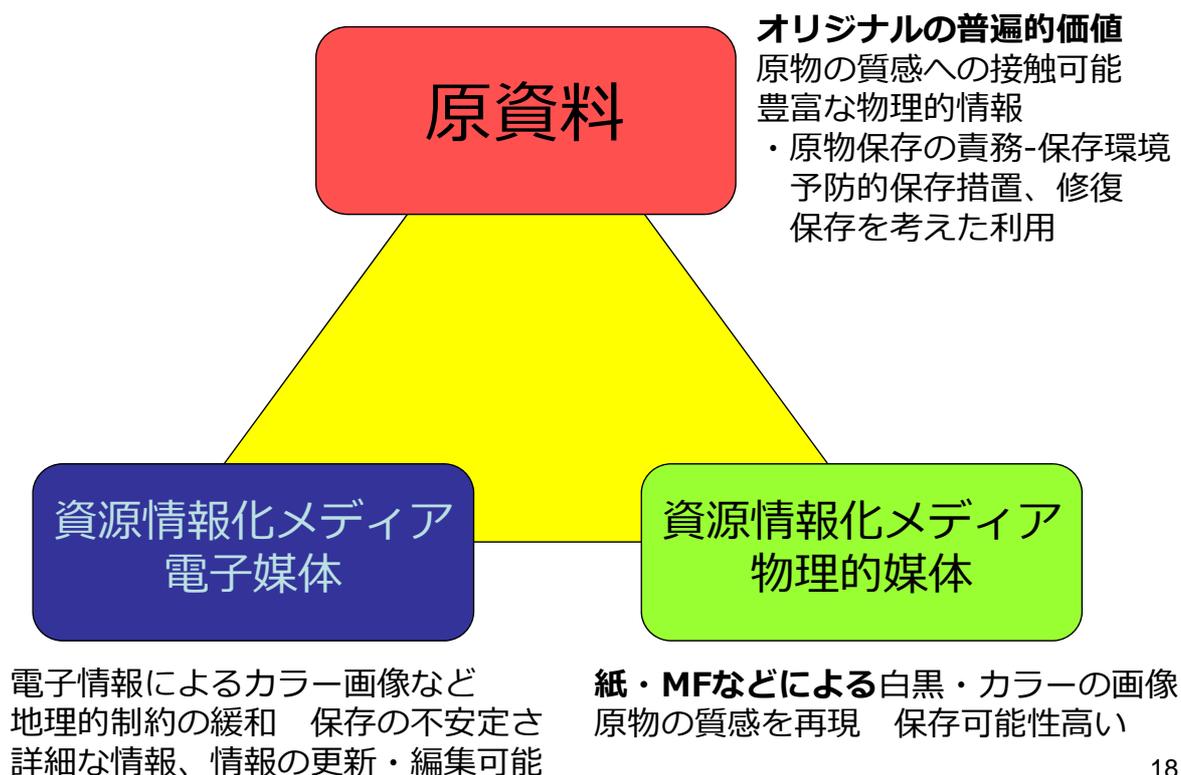
16

デジタル化後の資料の取扱い (災害に備えたバックアップの観点も含めた保存場所の考え方等)

- つくば分館の役割→付近施設との関連
放射光科学研究施設 Photon Factory (PF) 高エネルギー加速器研究機構 (KEK) 茨城県つくば市

17

原資料と資源情報化メディアの役割



18

原資料と資源情報の トライアングル保存

- 国際的協定を模索→ICAの動向

International Research on Permanent Authentic Records in Electronic Systems (電子記録の永久真正性に関する国際研究プロジェクト) ブリティッシュ・コロンビア大学 (ルチアナ・デュランチ) 中心。米・加・欧・豪・アジア各国際チーム

- 中国－重慶市档案馆報告、バックアップについて、「300キロメートル以上に離れ、かつ同流域または同地震帯に立地しないこと」

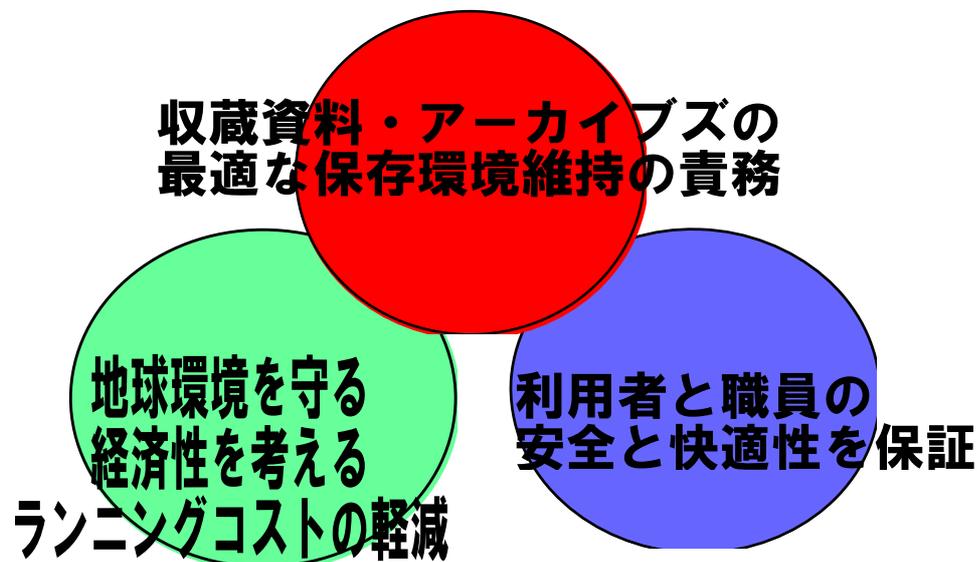
19

○アーカイブ関連施設整備における ベースとなる考え方

- 参考資料を参照ください。

20

国文学研究資料館 建築・設備のポリシー



21

保存図書館の役割



- 本ケースとカバーを
ともに残した収納と
配架
- 原形保存と物理的保
存のために-劣化損傷
の予防
- どこが保存していけ
るのか?
- 電子図書館の役割

22

今後のお願い

- これから日本におけるMLA連携の観点から、国立国会図書館、国立文化財機構東京国立博物館における収蔵施設の現状と課題について報告をお願いしたい。
→国会図書館の地下書庫、博物館における収蔵庫改善の具体的内容と効果について
- 参考 – 2002年『博物館・アーカイブズ・図書館のためのコレクション・ケア基準:自己点検マニュアル』